

極楽寺だより



2019(令和元)年8月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

盆法会のご案内

八月十四日（水）

朝 九時より

盆法会

八月十五日（木）

朝 九時より

いのちを尊ぶ法要

魚法会

全戦争犠牲者追悼法要

両日共、お勤めとお話を合わせて、一時間くらいで終わります。帰省された方々と一緒に、お参りください。

平和の鐘を撞きましよう

八月十五日法要後 朝十時頃から

八月十五日は、終戦記念日。虚しく、

悲しい戦争は、昔の話ではありません。

今でも尚、世界中で続いています。戦争は、

一部の政治家がするものではありません。

価値観や空気など、日常生活の積み重ねの延長戦にあるもの

なのです。

私たちの先輩方は、魚のいのちを奪わねば生きていけない悲

しみと痛みの中で、「魚法会」を勤めてこられました。痛みが

あるのは、尊んでいることの裏返しです。痛みが感じられなく

なると、いのちの重さがわからなくなります。「せめてこれく

らいは」という慎みのブレーキが効かなくなるほどに、自他の

いのちを軽く扱うことにもなるのです。戦争もまた、その延長

線上にあるのでしよう。

阿弥陀様の光に照らされ、自らを振り返り、いのちの尊さを

味わう。その思いと平和への願いを、響き渡る鐘の音に重ね、

いのちを尊ぶ生き方の一步とする。そんな願いを込めています。

どなたでも撞くことができます。どうぞお参り下さい。



ご予約
ください

第56回三隅地区親鸞聖人鑽仰会法座

期日：9月27～28日 会場：津雲 寶國寺

講師：外松太恵子 師 ※お寺で送迎致します。遠慮なくお申し出下さい。

6月23日の総代・世話人会議にて、
下記の通り収支決算が承認されました。

2018（平成30）年度極楽寺門徒会収支決算書

2018年4月1日～2019年3月31日

	費目	金額(円)	摘要	
収 入	門徒会費	1,206,000	今年度分 254戸×4,000円 (野波瀬 109 / 在方 105 / 町外 40)	1,016,000
			今年度分不足分 5戸 (3,000円×1/1,000円×4)	7,000
			前納分	183,000
	本山教化助成金	2,100		
	貯金利息	16	(8/20) 7円 (2/18) 9円	
	前年度繰越金	1,489,277		
	合計	2,697,393		
支 出	負担金	411,180	本山賦課金	258,180
			山口教区費	116,400
			大津東組 組費	36,600
	研修会費	5,000	組総代会総会 (7/27)	3,000
			教区総代会公開講座 (10/15)	2,000
	火災保険料	302,980 本堂 6,700万円 庫裡 4,000万円	西部農業共済	91,200
			J A 共済	161,680
			J F 共済	50,100
	会議費	60,000	総代世話人会議	
慶弔費	20,000	中谷政雄・小林英昭元世話人葬儀御仏前	20,000	
予備費	0			
	合計	799,160		
	差引残金	1,898,233	漁協普通預金	

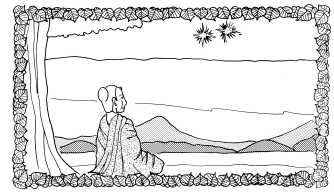
2018（平成30）年度極楽寺門徒会 特別会計収支決算書

	費目	金額(円)	摘要	
収 入	前年度繰越金	2,698,872	漁協定期預金	2,292,380
			普通預金	406,492
	利息	198	定期 194円 普通預金 4円	198
	合計	2,699,070		
	支出	0		
	合計	2,699,070	漁協定期預金	2,292,380
			普通預金	406,690

門徒会費 4,000 円の納入をお願いいたします。

三隅地区の方は世話人さんへ。

他地区の方は、直接お寺へ納入して下さい。



極楽寺掲示伝道 けいじでんどう

たくさんの
いのちの中に
私がある
ともに歩む

麻田秀潤

極楽寺掲示伝道

8月の言葉

生きていたんですね」といった言葉をよく聞きます。一人の人生は、多くの人々との関わり合いによって成り立っているのです。その事実を味わうことは、人間が生きていく上でとても大切なことではないかと、考えさせられます。

毎年八月十二日。群馬県の御巢鷹山の尾根にある昇魂之碑の前には、たくさんの方々の姿があります。一九八五年、五二〇人の人生が奪われた日本航空123便墜落事故の遺族の方々が、追悼のために登られるのです。

近頃は、葬儀を簡素化する傾向が強くなりました。それぞれ事情がありますから、それがいけないというわけではないのです。ただ、その裏には「できるだけ、迷惑をかけたくない」という思いや、「知らない人に来られても困る」「後のお返しが大変だ」という声があるようです。

それが行き過ぎて、お参りを断る家もあるのだとか。しかし、亡き人は遺族だけのものではありません。遺族は知らなくとも、亡き人はたくさんの人々と共に生きてこられたのです。

私は葬儀の後に、遺族の方（特に都会に住んでおられる方）から、「たくさんの地域の人が、お参りに来てくださった。涙を流してくださいました。お母さんは、あの人たちと一緒に

そしてそこには、この二十年の間に起きた、さまざまな事故や災害の遺族の姿もありました。信楽高原鉄道事故、JR福知山線事故、中華航空機事故、オーストリアのケーブルカー火災、明石歩道橋事故、東武竹ノ塚踏切事故、シンドラー社エレベーター事故、御嶽山噴火災害、東日本大震災の津波災害、関越自動車道バス事故、軽井沢スキーバス事故・・・

これらの事故や災害の遺族が、



なぜ御巢鷹の尾根を目指し、集うのか。そのきつかけは、日航機事故で当時九歳の次男・健さんを亡くされた美谷島邦子さんが、その後も次々に発生する事故や災害の慰霊祭や遺族の集いに参加し、交流の糸口をつくってきたことに始まるのです。

美谷島さんら遺族で作る「8・12連絡会」は、考え方や立場の違いにこだわらず、緩やかな関係でつながり合い、悲しさやつらさを語り合う場を作り、遺族の孤立化を防ぐとともに、安全で安心できる社会作りに向けて発言してきました。

美谷島さんは新たな事故や災害の現地を訪ね、遺族とともに現場を歩いて語り合います。そして「一度御巢鷹に来てみませんか」と声をかける。その積み重ねが、御巢鷹の尾根での集いを生んだのです。旧知のような出会いの親睦感を胸に刻み、帰途に就くだけ。それぞれ悲しみを胸にたたえていても、出会いの場では、みな柔らかな笑みを浮かべているそうです。

また、美谷島さんたちは「いのちを織る会」を結成し、小中学校での「いのちの授業」などの活動をされています。➡

その授業に参加した小学生は、こんな言葉を書き記しました。

「一つの命の後ろには、たくさん命があると感じた」

〔「日航ジャンボ機墜落事故32年」毎日新聞2017年8月26日 柳田邦男〕

事故や災害で亡くなられた方を、長い時

間が経つてもなお、悼み、思い続ける人がいる。三十年以上の年月を経ても、忘れられない悲しみがある。それは、亡き人を大切に思い続けているからなのです。そして

その悲しみを抱えながら、共に生きている人たちがいる。そんな姿を通して、一つの命の後ろにある、たくさん命をアルに感じたからこそ、生まれた言葉なのだと思います。

同時に、この言葉を書いた小学生は、思ったことでしょう。「僕が死んだら、悲しむ人がいる。だからこそ、僕も一生懸命に生きなくてはならない」と。

たくさんいのちの中に、私がいるのです。そして、私の後ろには、たくさんいのちがあるのです。それは、別々なものではありません。つながり合い、支え合って、成り立っている。仏教では、その繋がりこそが「私そのもの」な



だと教えます。まさに、いのちは多くの関係性で織り上げられたもの。美谷島さんたちが会の名称を、「いのちを織る会」と名づけられたのは、いのちの本質をズバリと指摘されていると思えました。

近頃は、「つながり」を「縛り」のように受け止め、断ち切ることで自由になれると思う人が増えました。しかしそのことで孤立が生まれ、自分のいのちを、そして周りのいのちを、軽いものとして扱うようになってはいないでしょうか。長いいのちの歴史があるからこそ、今私の人生があるので。たくさん人のいのちの中に、私の人生があるので。そんな広大無辺のいのちの幅と深さを、仏教は教えてくださるのです。そして、その事実に見覚めることが、自らのいのちの重さを知り、周りのいのちを尊重することになるのだということも。 ■



7月の言葉

ある小学校の校長先生から、こんな話を聞きました。

「学校に対して、強い口調で、ケンカ腰にクレームを言い立てる親御さんがいます。それは、不安だからです。不安な気持ちを隠そうとして、攻撃的になる。だから、ゆつくりと話を聞いて、受け止めてあげなくてはいけません」と。

不安だからこそ、逆に強く出てしまう。「攻撃は、最大の防御」という言葉がありますが、攻撃的になるのは弱みを見せられないから、不安だからとも言えるでしょう。失礼な喻えになるのかもしれませんが、「弱い犬ほど、よく吠える」ということわざもあります。

不安な気持ちがあるのなら、わざわざ攻撃的にならなくても、素直に助けを求めれば良いはず。それほどまでに、



弱みを見せられないという思いが強いのは、なぜなのでしょうか。

考えてみれば、近頃は「迷惑をかけるな」「自己責任だ」という声が圧力のように、この社会を覆っています。強くならなくてははいけない。自立しなくてははいけない。それどころか、迷惑をかける人間は生きる資格がないと言わんばかりに。だから、弱みは見せられないし、助けを求められない。不安はますます強まり、不安を隠そうとすることで、また攻撃的な態度が生まれるのかもしれない。



以前、保護司の研修会で、ダルクという薬物依存症の人たちの更生施設に行ってきました。依存者同士が自らの経験を語り合う中で、助け合い、支え合いながら、更生しています。ダルクでは、人間回復を目指しています。人間回復と聞くと、「強くなる」「自立する」「薬物の誘惑に負けない人間になる」そんなイメージを持ちませんか。私は、そんな思いで見学していました。

ところが意外なことに、全く逆だったのです。ダルクの目指す人間回復とは、「自分の弱さを認めること」そして、「私は助けってもらっていいのだと気づくこと」だと言われるのです。

薬物の快感は、脳に直接影響を与えますから、理性ではコントロールできません。だから弱さを認め、薬物から遠ざかるしかないのです。実際に、ダルクのスタッフの人たちは「私たちは今でも薬物依存者なのです。目の前にあれば、必ず手を出します。それを自覚するからこそ、遠ざかるようにしているのです」と言われていました。見た目には、とても依存者だとは思えませんでした。

薬物依存症になる人たちは、家庭環境に問題があることが多く、疎外感と孤独感を抱えているそうです。それは、周りが信頼できない、みんなが敵に見えるということです。敵ならば勝たなくてはなりませんし、弱みは見せられない。しかし人間ですから、いつも勝つことなどできません。だから常に



不安がつきまとい、不安を解消するために、つい薬物に手を出してしまう。薬物は、全能感（自分は何でもできるという感覚）を生みますから。信頼できる場所、安心できる場所がないのは本当につらいことです。それだけ傷つき、心にポツカリと穴が開いているのでしよう。まさに、空虚な心が強さを求めるのです。

そんな状況からは、自力で抜け出すことはできません。しかし、周りを敵と思っている時には、助けを求めることなどできるはずありません。そんな時に、同じ経験をした人から「弱さを受け入れていいんだ」「助けを求めていいんだ」と言われることは、確かな力になるはずです。簡単にうなずくことはできないでしょうが、そう生きた人が目の前にいるということは、とても大きなことですから。

ダルクの取り組みを目の当たりにして、私は親鸞聖人の生き方を思いました。親鸞聖人は、自身の弱さ、愚かさ、悲しき、切なさを、「強さを求めることで克服する道（自力）」から、「受け入れ、素直に助けを求める道（他力）」へと方向を変えられたのです。それは、私という存在を丸ごと受け止め、支えてくださる阿弥陀様の世界との出遇いがあったからでし

た。阿弥陀様への信頼を通して、新しい人生が開かれたのです。そんな人が、私の前を歩んでくださることの有り難さを感じます。

私たちが生きている現代社会は、強さを追い求め、弱さを受け入れにくい状況になっています。自己責任が叫ばれ、素直に助けを求めることが困難な状況です。それが不安を呼び、空虚な心を生み、強がる態度や攻撃的な口調を生み出している。あたかも、中身のなさを隠そうと、大きな音を立てるかのように。そんな生き方が、私たちの人間性を失わせているのではないのでしょうか。

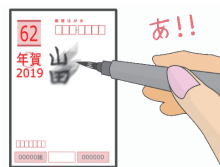
そんな中で、私は親鸞聖人と出遇うことができました。弱さを受け入れ素直に助けを求めることで、新たな人生を開かれた人が、私の先を歩まれている。その歩みが、私を少しずつ人間へと回復させてくださっています。■



物でお布施

家庭で眠っている物を、周りの人のために、活かしませんか。下記の物があれば、お寺までお持ちください。

書き損じはがき・未使用切手
未使用テレフォンカード
商品券・ビール券など金券
CD・DVD
ゲームソフト・ゲーム機器



仏教の精神にもとづき活動するNPO法人『アーユス 仏教国際協力ネットワーク』に送り、海外の難民支援や国内災害の被災者支援に使わせていただきます。



プルトップも、
引き続き集めています！

本願寺山口別院に送り、換金した後、県内の福祉施設に寄付されます。

本堂に設置してある回収箱に、お入れください。

お寺からの
お願い

お盆には、たくさんの方が納骨堂にお参りされます。参拝はご自由にされて結構ですが、くれぐれも火の後始末をお願いします。特に、続けてお参りされる場合、ろうソクの火を「次の人のために」と消さないままにされるところに、落とし穴が！結局つけっ放しで危険なことに。次の方に「ろうソクの火を消して下さいね」と、一言かけてあげていただけると、助かります。



住職のつぶいやく

□最近、北方謙三の歴史小説を読み直しています。ハードボイルド小説で一時代を築いた北方は、南北朝時代の九州を舞台にした『武王の門』で、初の歴史小説を発表。元々歴史小説好きだった私ですが、この作品でどっぷりとハマリ、以来20年読み続けております。その後、舞台を中国に移し、『三国志』（全13巻）『水滸伝』シリーズ（『楊令伝』『岳飛伝』を含め全51巻！）などの大作が発表されますが、これらもモチロン全部読んでいます。□北方作品に共通するテーマは、「夢に生きる男の生き様」。しかし最後には、皆滅びを迎えます。夢をかなえるという結果よりも、夢を追う闘いという経過そのものが、北方にとっては「男の生き様」なのでしょう。また、登場人物が魅力的で、かつ多面的。豪傑の持つ弱さや、臆病であるが故の緻密さ。複雑だからこそ人間は豊かなのだということを教えられました。それも北方の、人間への深いまなざしがあるからなのだと思います。今考えると、かなり大きな影響を与えられていた気がします。□中でもお気に入りの登場人物は、『三国志』の張飛。乱暴者と伝えられる彼も、北方作品では一味違います。繊細で心優しいからこそ、あえて汚れ役を引き受ける魅力的な人物に描かれています。□北方ファンがおられたら、ぜひ声をかけてください。熱く語り合いたいものです。（住）